

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 27 号 平成 20 年 2 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

かぜ症候群後の咳嗽

呼吸器科部長 加藤 高志



咳嗽は非常に頻度の高い症状の一つです。最近では、聴診や胸部X線で異常を認めず、一般の鎮咳剤が無効で長く続く咳だけを訴えられて受診する患者さんが増えています。2005年に日本呼吸器学会から「咳嗽に関するガイドライン」が発表され、咳嗽をその持続期間から、発症後3週間以内の急性咳嗽、3から8週間の遷延性咳嗽、8週間以上の慢性咳嗽に分類しています。これは、原因疾患として、急性咳嗽では感染症の頻度が多いのですが、遷延性・慢性咳嗽に移行するにつれて感染症以外の原因が増加することに依ります。

急性咳嗽の原因の大部分はウイルス性であり、他にはマイコプラズマ、クラミジア、百日咳、急性鼻副鼻腔疾患、慢性気道疾患の急性増悪があります。そして、急性咳嗽の原因の大部分であるかぜ症候群後に、長く続く咳を訴える患者さんをよく経験します。

かぜ症候群は鼻汁、くしゃみ、発熱、咽頭痛、咳嗽などが症状としてみられますが、その治癒が遷延して咳嗽、主として乾性咳嗽が続くことがあります。遷延性・慢性咳嗽における頻度は、10～25%程度という報告があります。診断の要点は、かぜ症候群が先行していること、そして除外診断です。胸部X線で異常がないこと、可能であれば肺機能検査で閉塞性障害の存在を確認できればと思います。また、ACE阻害剤内服の確認も必要です。治療については、自然軽快傾向がありますが、咳が長引いて治療を希望される患者さんが多いので治療します。中枢性非麻薬性鎮咳剤、ヒスタミンH₁受容体拮抗薬、麦門冬湯などが有効であり、3剤を併用するとさらに効果が高まります。マイコプラズマ、クラミジア、百日咳が原因と考えられる場合には、マクロライド系やニューキノロン系抗菌薬を使用します。

かぜ様症状が先行していても必ずしもかぜ症候群後の咳嗽とは限らないことに注意も必要です。どんな原因であれ、1～2週間治療しても咳嗽がよくなる場合には呼吸器専門医にご紹介いただくのが原則ではないかと思えます。該当する患者さんがおられましたら、ご紹介いただくと幸いです。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

高齢者の骨折について

リハビリテーション科部長 櫻木 哲太郎



1月に入り、一段と寒くなり、高齢者による転倒による骨折件数が多くなってきました。高齢者の骨折の中では胸腰椎圧迫骨折、大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折が多く認められますが、最近ここ数年では、高齢者による骨折の中では上腕骨近位部骨折と橈骨遠位端骨折が増加傾向にあるようです。

転倒され手をついて受傷すると橈骨遠位端骨折が発生し、転倒し肩関節部を強打すると上腕骨近位部骨折する症例が多く認められようになっています。

今までは高齢者の上腕骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折は保存的に治療することが多く、偽関節や変形治癒となり後遺症となる症例が多く認められた。しかし、近年、高齢者が増加し、骨折件数が増え、骨折型も粉碎例が多くなり、手術する件数が増えている傾向があります。

現在では、骨粗鬆症にもよいとされる内固定材料が進歩し、高齢者には比較的low侵襲な手術法かつ、固定性が良好なインプラントが開発されてきた。それにより、手術成績がよくなっている傾向にあります。

現在では手術する年齢も高く、基本的には骨折転位がないか、少ない例には保存的治療を行っていますが、骨折転位があり、整復困難例や整復位がとれない症例には手術的治療を行っております。

しかし、骨折の予防も必要で、高齢者の方は積極的に骨密度を検査を行い、治療することにより、転倒や怪我をしたときに骨折しないように少しでも予防ができればよいと考えております。